

止まったままの時計

5年 M・Sくん

陸中山田駅の十五時二十五分のままで止まった時計。ほくは、小さいころから時計が大好きで、いろいろな種類の時計を集めてきたけれど、津波の被害で止まってしまっても大切に保存されている時計がある事を「海よ光れ！」を読んで初めて知った。そして、ほくにある疑問がわいた。この止まった時計は、なぜ捨てられずに、見える場所に残されたのだろうか。

二〇一一年三月十一日午後二時四十六分。山田町も、東日本大震災の被害を受けた。地震と津波で多くの人々が亡くなった。大沢小学校の生徒達は、周りの大人達が自分達を必死に守ってくれているすがたを見て、今度は自分達が出来る事を皆で考え、動き始めた。そして、小さい子どもやお年寄りを思いやりながら、皆をばげました。低学年が始めた「肩もみ隊」では、多くの人達が涙を流し、そして、笑顔になった。「泣いてばかりいられねえな」と。

震災後初めての卒業式を無事に終え、今度は、子ども達の「海よ光れ」への思いが高まる。まだ大きな余震が続く中、自分達の思いをこめて再開した学校新聞「海よ光れ」。タイトルは「負けるな よみがえれ 大沢の海よ光れ！」「ありがと」の大きな字。全国の支援をしてくれた人々に感謝の気持ちを伝えたい、大沢の町が「前を向く」ための新聞にしたいという強い思いがあったから。そして、次はもう一つの「海よ光れ」への思い。大沢小学校で二十三年間続けられてきた伝統行事である全校生徒による表現劇。震災後すぐの「海よ光れ」は、津波のシーンで地震の事を思い出し、泣いてしまう子もいるかもしれないと中止。この時、大沢小学校の生徒達は、劇が出来ない事をなげくのではなく、自分達に出来る事で前に向かってつき進んだ。

ほくは、こうした時、自分のしたい事をあきらめ、人を思いやる事が出来るだろうか。コロナの時に、出来ない事ばかり目を向けていた自分を思い出し、反省した。

陸中山田駅の止まった時計。ほくは、どんなにつらくても自分が出来る事を見つけ、前へ進み続ける事の大切さを伝えるために残されたのだと思う。たとえ、時計は震災の時刻で止まってしまっても、大沢の町は、これからもどんどん復興し、明るい未来に向かって前へ前へとつき進んでいくだろう。そして、ほくも、時計を身に付ける度に、あの止まった時計を思い出す。